

令和元年（2019年）第3回 熊本市市民公益活動支援基金運営委員会議事録（要旨）

1 開催日時：令和元年（2019年）11月11日（月） 10時00分～11時00分

2 開催場所：市役所本庁舎12階会議室

3 市民公益活動支援基金運営委員

- ・出席者： 古賀 倫嗣 委員長（放送大学 熊本学習センター 客員教授）
越地 真一郎 副委員長（熊本日日新聞社 NIE 専門員）
中島 久美子 委員（特定非営利活動法人
熊本県子ども劇場連絡会 理事長）
吉永 京子 委員（公募市民）
白石 義晴 委員（市民局市民生活部長）
藤川 潤子 委員（東区役所東部まちづくりセンター所長）
- ・欠席者： 水野 直樹 委員（一般社団法人 スタディライフ熊本 理事）

4 会議録（要旨）

【議事事項】

（1）令和2年度助成事業予算額

（資料1に基づき、事務局より説明）

（中島委員）

熊本城マラソンの寄附額が前年度よりもかなり増えているようだが、どのように力を入れていかれたのかお聞きしたい。

（事務局）

熊本城マラソンに関しては、寄附額に対して直接的な効果があったかはわからないが、昨年初めてフィニッシュエリアという当日ゴールをした後に立ち寄れるエリアに当基金のブースを設置させていただいた。何かマラソンに関して取り組みを行ったとしたら、そのブースに当基金の紹介と当基金は想いをつなげる制度という意味合いもあるため、これをマラソンの応援につなげるといった趣向で、来場者からランナーへの応援メッセージをいただくボードを設けた。このブースは今年も出す予定である。

（越地副委員長）

その募金箱に200万円の寄附があったのか。

（事務局）

熊本城マラソンランナーからの寄附は、マラソンのエントリー料と一緒に振り込んでいただくものなので、募金箱でいただいたものではない。先程資料でご説明した2019年大会後期分とは、一

一般ランナーが、ランナーの出走権には関係なく、善意で、エントリー料に一口500円を自分が希望するだけ上乗せして支払うものであって、2020年大会前期分とは、それよりもっと早く受付している制度で、3万円以上のご寄附をされた方は、抽選なしで出走が確定するという枠があり、その特別ランナー分としていただいたものである。

マラソンを申し込むときには、サイト上で寄附の呼び掛けのようなものがあり、そのなかで熊本城復興とスポーツ振興と市民公益という3部門のなかから選んで寄附をしてもらうようになっている。その選択される割合が増えてきたということがあるのかもしれない。

(越地副委員長)

その3つのうち、私はこれにしますと指定するのか。

(事務局)

指定して、特別ランナーの場合はすぐにお支払いいただく。一般ランナーの場合は、寄附をされない方もいらっしゃるし、もしもしようと思ったら選ぶことができる。

(越地副委員長)

その場合も選ぶわけになるのか。

(事務局)

この市民公益の寄附という部門は、必ず約束されているものではなくて、毎年マラソン実行委員会での寄附先を部門とするのかを決定しているので、熊本城マラソンからの寄附が来年もあるのかというと、その実行委員会の決定次第ということになる。

(越地副委員長)

いまは選択肢が3つあるが、それはマラソン事務局サイドが決めるということか。一昨年は極端に少なかったように思うが、それは何故か。

(事務局)

一昨年の分に影響していたのが、平成28年の震災の年ですが、先程申し上げたように、この年はまさにメニューとして選ばれなかった年で、その年の大会は、平成29年2月にあったのだが、復旧復興支援と熊本城復興支援ということで、寄附メニューが完全に復興に特化していた。その影響で前期・後期ともに寄附がなかったので、2年度にわたって財源が減額になっていた。

(古賀委員長)

いかがだろうか。そうすると、いまのご説明からは、熊本城あるいは復旧・復興がある程度目途が立って、3つの選択肢のなかから当基金が選ばれる可能性が今後大きくなっていく、という見通しでいいのだろうか。

(事務局)

本市としても、市民公益活動には今から力を入れていき、どんどん市民の方に呼び掛けをしてい

くので、そういった意味では割合は上がっていくのではないかと期待している。

(越地副委員長)

一方で、これがなくなれば根本が崩れることにもなる。大げさに言うと、熊本城マラソンからの寄附で成り立っている部分がある。そうすると、多少の減額だと影響はないと思うが、これがガタッと減少した場合。2年前は確か、寄附がものすごく少なかったんじゃないかと思うが。

(事務局)

東京エレクトロン九州様からの冠寄附があって、どうにか200万円にちょっと足りない程度の金額だった。

(越地副委員長)

そういうことも今後考えられる。

(事務局)

そういったこともあるので、寄附金付自動販売機の推進や今回から採用した冠寄附者の参画など、寄附についてはそのような取り組みを進めていきたいと思っている。

(古賀委員長)

いまお話が出た寄附金付自動販売機は、今年度と昨年度はだいたい同額だが、これは契約時に金額が決まるものなのか。それとも、何もしないでこの数字に近づいたのか。

(事務局)

基本的には、自動販売機の設置者と、自動販売機のメーカー間でお決めになるのだが、大体は売上に応じていくら、もしくは1本あたりいくらという設定をされているので、昨年度と比べてほとんど金額が変わらないのは、あまり台数や設置業者が変わっていないので、自動販売機の売上が変わらなければ、例年同じぐらいの寄附が入ってくるようになっている。

(古賀委員長)

一般寄附と比べても、意外と大きい金額で、これについては随分事務局で努力されたと思う。改めてお礼申し上げます。いかがでしょうか。議事1について、特に助成予算額だが、このとおりでよろしいでしょうか。

(一同、異議なし)

(古賀委員長)

それではこの件については、原案どおり承認とさせていただきます。

(2) 令和2年度助成申請・審査について

(資料2に基づき、事務局より説明)

(越地副委員長)

2点申し上げる。資料の4番目、この1年間の事業のなかで、一番のフィニッシュである事業報告会だが、これは非常に大きな意味を持つのかなと思っている。ここでお互いに顔をあわせて、意見交換して、こういう良いところがあった、助成のおかげでこんなことができた、その一方で課題も出たとか、様々な情報交換の場になると思う。それ以前に、ここをより充実した報告会として盛り上げて、いろんな方が来たくなるような場に、雰囲気作りなども含めてやっていくと、それが次年度のサイクルとして繋がっていくという気がする。私も一度は覗いて、それなりに思うことがあった。ただ、ちょっと良い意味で派手にというか、何かを付け加えたり、シンポジウムをやったりだとか、いろいろな工夫をなさっていると思うが、より興味が湧いてくるような仕掛けを考えてもらえればなと思っている。

もうひとつは、8枚目に寄附者の紹介がある。先程の説明で公開を希望する方のみとあったが、実際には総数でどれくらいの方がいらっしゃるのか。それと、もし公開希望のみということであれば、そのことは入れておいた方がいいのかなと思う。つまり、ここが一番大事だと思う。冠基金も大事だけど、この基金の趣旨からいくと、一般の方や企業が、気楽にわずかであっても出し合う裾野が広がっていくことが要だと思っている。そうすると、これだけ見るとなんだか寂しいなあと、たったこれだけの人でこの基金をやっているのかとなると、寄附の意欲を削ぐことにもなると思う。そこで、公表希望以外の寄附者が見えると、じゃあ自分もその一員になろうかという誘い水になるのかなあという気もしている。

あわせて、その資料の一番下に寄附者の棒グラフがあるが、これは非常に分かりやすい。ここで掴めた概略としては、個人・団体の部分が、ここ3年間は50、60万円と安定して、一定の金額が集まっているが、その前と比べるとぐっと落ちている。この辺はどう考えたらいいいのか。先程言った、こういった個人やいち企業からの寄附が広がって、初めて裾野が拡大できると考えると、この傾向は寂しいことだなと思っている。この辺に理由があるのか、理由とは言わず、自然なながれてたまたまこうなっているのか、そこはわからないけども、この棒グラフで気になったところだった。

(事務局)

非公表を含めた寄附者数については、こちらの一覧が前年11月から今年10月までの寄附財源の期間のものなので、ますますにはお答えできないのだが、4月から3月までの年度単位であれば参考までに申し上げたい。平成30年度では、マラソンランナーを含めた個人からの寄附が872件、企業からが31件、そのうち寄附金付自動販売機が28件であり、一般の企業からは3件となって、合計903件であった。やはり、件数についてもマラソンランナーからの寄附が断トツで多い状況ではある。

(越地副委員長)

その但し書きをそこに入れてはどうだろうか。

(事務局)

先程あったように、希望者のみの公表という表示をさせていただきたいと思う。

(越地副委員長)

たくさんの方がいるとなると、やっぱりそれが誘い水になるのではないかな。

(事務局)

あわせて、報告会に対してご意見をいただいた、いろんな方がきていただくようなきっかけづくりなど、そういったものは今後考えていきたいと思う。また、一般寄附の金額の移り変わりについてだが、この時期に一般の方からの遺贈で100万円の寄附があったりだとか、市役所職員の15日会という任意団体があったのだが、それが解散したときの残余金を寄附されたことがあった。したがって、単純に件数が大きかったというよりは、冠寄附と同様に、1件の金額が大きいものなので、先程越地副委員長がおっしゃった理由の有無を考えると、大きな寄附があったかなかったか、というものなので、読みが難しいものになると思っている。なので、改めて件数に落とし込むかなどの分析が必要かとは思いますが、いまのところは安定的に50、60万円程度の寄附を集めながら、あとは先程ご指摘があったように、こういったいろんな方が寄附をしていることを効果的にPRしていき、さらに伸ばしていければ良いなと思っている。

(古賀委員長)

事業報告会の充実ということで、参考までに申し上げますと、私もいくつか審査に関わっている団体のひとつとして労働金庫がある。ここでは、総額が200万円とまったく一緒に、今年は40団体の応募があり、ろうきんは都道府県ごとにあるが、これは九州でトップ。そういった意味では、ろうきん本部も、熊本というところは非常に市民活動あるいはボランティア活動に熱心なところであるという評価としている。それを受けて、いまの報告会に関してだが、一番大きなイベントとしては7月初めに新年度の助成団体決定の目録交付式というものをやって、そのときに全団体のうち実績報告を3件ほどする。それで、今年変更したのが、ひとつは事務局などにも開催のご案内があったかと思うが、こういった助成をしているところに、ひとまずろうきんが何をやっているのかをお知らせしようということになり、あわせて参加呼び掛けを行った。それともうひとつが、2時間の報告会のなかで、時間帯が昼なのでお酒はでないのだが、これまでケーキを出していた。それをやめにして、NPOを目指すような、あるいはより団体を評価していくところで、福岡市にある指定NPO法人あかつきという中間支援団体の方に来ていただき、会計処理だとか、事業計画書の作り方。例えば、雇用した場合の手続きや、領収書についてはレジの方がいいのか、普通の領収書がいいのか。これは、内訳がわかるのでレジの方がいいのだという話など、そういったきめ細やかなアドバイスがあった。あわせて30分程度の説明だが、非常によくできていたのは、事前にその年に新規で採択された団体のことを調べておられて、事業関係で「この団体はこういうところを改善すると来年度で上手くいく」だとか、会計だとか、そういったことで、その当事者の団体を壇上にあげて一緒にディスカッションしたりと、なかなか魅力的な取り組みをされた。当基金にも当基金としてのやり方があると思うが、やっぱりそのような、具体的に報告会なり主催する行事なりに行くと、こんなことが提供できるんだというものがあれば。

そのときに、やはりいろんな団体が困っているのは、会計処理とホームページをどうしたらいい

のかといった広報。そして3番目が仲間の集め方と、こんなところに特化したかたちで、専門の指定 NPO から説明をいただいた。これがかなり好評だったと伺ったので、参考までにお知らせしておきたい。

(中島委員)

ちょっと質問をさせていただきたい。助成団体が助成申請をするときは、やはり資金不足があって申請をされるのだけれども、当基金は事業終了後の交付になるのだろうか。いまのところ、概算払いを申請する団体はどのくらいあるのだろうか。

(事務局)

例年15団体程度の事業が採択されるが、確定払いを前提としながら、ほとんど10団体程度が概算払いを申請されている。また、金額も一部ではなく全額で交付している。そのため、残りの5団体程度が、事業終了後の助成金確定後にお支払いをしている。

(中島委員)

いま古賀委員長もおっしゃっていたが、これからの NPO 団体がどんどん育っていくためには、領収書の集め方などを含めて、資金繰りの相談などはすごく必要なことなのかなと思った。

(白石委員)

助成事業の申請について、スタートアップ助成とステップアップ助成のいずれか1事業というのは、つまり設立3年未満の団体でもステップアップに申請できるということだろうか。

(事務局)

そのとおり。

(白石委員)

それから、4ページにあるスケジュールだが、最初に見たときに流れが2つあるのかと思ってしまったので、上にあるのが時期で、下がその内容という説明を入れておいた方がわかりやすいと思った。

(古賀委員長)

ご指摘のスタートアップ助成については、今年度助成事業は申請件数が少なく、ほとんど全部が採択になった。もちろん採択の審議は行うが、今回はちょっと少なかったという特徴がある。そのように、団体を育成したいという希望から2つの制度を設置したところであった。

他にお気づきのことはあるだろうか。以上でよろしいだろうか。

(一同、異議なし)

(古賀委員長)

それでは、議事(2)を原案どおり承認とさせていただく。

【4 次回委員会の開催について】

(資料3に基づいて、事務局より説明)

(藤川委員)

次回委員会の場所は決まっているだろうか。

(事務局)

ウェルパル1階の大会議室を予定している。

(古賀委員長)

例年どおりのスケジュールということである。それぐらい申請があるかわからないが、できるだけたくさん申請があるよう、委員の方々も何かきっかけがあればお声掛けをお願いしたい。

よろしいだろうか。何か全体を通して、その他の意見等があればいただいて。

(吉永委員)

いつも今後のスケジュールを早めに電話してくださるので、いろいろあるもんだからとても日程の調整がしやすくありがたいと思う。

(古賀委員長)

今回は終日かけて審査があり、特に最後の審査会はきちんと時間を取らなければならないので、ご多忙のなか恐縮ですがよろしく願いいたします。

【5 閉会】

(古賀委員長)

これをもって、令和元年度(2019年度)第3回市民公益活動支援基金運営委員会を閉会とする。

(終了)